

研究機関名：東北大学

受付番号：	2014-1-196
研究課題名	先天性大動脈二尖弁術後の遠隔成績
研究期間	西暦 2014 年 07 月（倫理委員会承認後）～2015 年 06 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録 ）
上記材料の採取期間	西暦 1990 年 01 月～2014 年 06 月
意義、目的	<p>先天性大動脈二尖弁はもっとも有病率の高い先天性心疾患として知られている。生涯無症状で経過する症例もあるが、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症を発症し、手術を要する症例も多く認める。また、これまでの研究で同疾患患者は遺伝的な背景より結合組織の脆弱性を有し、大動脈中膜変性により大動脈瘤の合併や急性大動脈解離を発症する危険性が高いことが報告されている。これらの背景を踏まえ、治療ガイドラインでは、同疾患を有する症例において上行大動脈に対する積極的な治療介入がこれまで推奨されてきた。しかし近年になり、同疾患患者において大動脈瘤や大動脈解離の頻度は非疾患患者と同等であるとの報告が散見されるようになり、大動脈に対する治療介入に関して治療戦略が見直されつつある。これまで当科で施行した先天性大動脈二尖弁患者の手術成績を後方視的に調査し、遠隔期の大動脈イベントの発生率などを検討することで先天性大動脈二尖弁を有する患者の上行大動脈に対する治療戦略の一助とする。</p>
方法	<p>1990 年より 2013 年 12 月までに当科で施行した先天性大動脈二尖弁患者の手術を抽出し、2014 年 6 月までの診療録より情報を抽出する。評価項目としては術後合併症の有無、遠隔期の心臓超音波検査、CT 検査結果、生死の有無等を検討する。その情報をもとに、大動脈イベントの発生率や、これまで施行してきた治療戦略の問題点、改善点を検討する。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学心臓血管外科医局 正木 直樹、齋木 佳克 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 022-717-7222